

# FUKUUCHI

Public Relations

No.108  
December

広報ふくち



## 特集・百年分の一杯

雲を込めた一杯の湯気の向こうに、百年分のふるさとが、浮かび上がる。



ふるさとの風土が詰まった郷土料理「福智名物・方城すいとん」。そのルーツ「方城大非常」から、ちょうど百年——節目に踏み出す一歩から、一杯が伝えるメッセージを受け止めたい。

2014  
12



⑨ボタにまざった炭を拾う、落ち穂拾いのような光景。苦しい生活の中、生きるための貴重な収入源だった。  
 ⑩表情豊かにお遊戯をする子どもたち。炭鉱で働くために移住者が増え、まちには多くの笑顔が輝いていた。  
 ⑪今では炭鉱住宅の面影もなく、ボタ山は中央公民館などの公共施設や新興住宅地に置き換わっている。

①高くそびえるボタ山や黒煙が昇る煙突は、過ぎゆく時とともに忘れ去られようとしているまちの原風景。②鉱員やその家族を支えた長屋。路地は子どもの遊び場や住民の交流の場だった。③石炭の粉も大切に使い、微粉を固めた炭団(タドン)は暖房用燃料として使われた。④明治期の採掘現場では、手掘りて採掘が行われ、死と隣り合わせの厳しい環境の中、鉱員は石炭を掘り続けた。

①炭鉱で商業も発展し、筑豊屈指の商店街を形成。その後、エネルギー革命の波にのまれて、数々の店舗が姿を消した。  
 ②出炭量の増加により、主要線路から多くの支線が引かれた。三菱方城、明治赤池などの炭鉱、そして駅とともに商店街が繁栄と拡張を重ねた。⑩家庭では兄・姉が親代わり。生活は常に炭鉱と共にあった。

風化していくヤマの光と影

# 郷土の礎に

日本のエネルギーを生み出すエネルギーシユなかつての故郷。そして、多くの犠牲のうえに今を生きている私たちの生活。あの「方城大非常」から百年、私たちの故郷を振り返ります。

## 愛と人情を支えに 精一杯生き抜いた故郷

かつて私たちの故郷は、炭鉱と人の活気に満ちあふれたまちでした。今ではその面影はほとんどありませんが、日本の高度成長を支えるエネルギーを生み出すまちは、人もまたエネルギーシユで、にぎわいのたえない繁華街がすぐそばにあり、ぬくもりと人情にあふれた炭鉱長屋が、日々の生活を包み込んでいました。



「方城町と炭鉱」の著者 植田辰生さん(方城)

国内最大の産炭地として名を馳せた筑豊炭田の中でも、有数の鉱山だった三菱方城炭鉱と明治赤池炭業所。最盛期の鉱員数は、あわせておよそ5千人。旧3町の人口は今の1.8倍の4万4千人。福智山を背景に、巨大な縦坑と煙突が誇らしく立ち並び、周囲には映画館や高級料亭、旅館に芝居小屋、クラブやカフェなど、中央から集中したわが国最先端の文化が生活を彩り、今では考えられないほどの活況が広がっていました。

「赤池、金田、方城、どのまちも24時間眠らない町でした。過酷な労働ではあったでしょうが、その分、家族にそそがれる愛情も深かった。木造平屋建ての炭鉱長屋では、1棟4軒から6軒の家庭が共同で暮らし、まさに向こう三軒両隣の生活。精一杯生きて、家族への愛や周囲の

情を糧に生き抜いた時代だったと思います」と当時を振り返る植田辰生さん。発電所があるので、炭鉱長屋では電気代がタダ、水道代も医療費も無料。風呂も共同で、石炭輸送拠点の金田では商店が軒を連ね、商いの町としてにぎわいました。

## 日本最大の炭鉱事故 方城大非常から百年

今からちょうど百年前、方城炭鉱が開坑して6年目の大正3年12月15日午前9時40分、日本最大の炭鉱ガス炭じん爆発事故「方城大非常」が発生しました。激しい爆音とともに地面は揺れ、黒煙のきのこ雲が吹き上がるほどだったといえます。殉職者は名前がわかっているだけでも667人(福圓寺過去帳)。千人以上ともうわさされた多くの人たちが、この



まちの地底で、一瞬にして尊い命を落としました。親子や夫婦の入坑者も多く、784人(15歳以下)が孤児となり、炭鉱長屋では最愛の人を亡くした遺族の泣き声が幾日も響いたといえます。

「炭鉱の路地で路頭に迷った小さな子どもたちは、どんな心境だったのか。方城大非常の犠牲者を供養



法齋を行ってきた福圓寺住職 富永秀元さん(伊方)

していくうえで、日々そのことを忘れたことはありません。昨年の百回忌で、かたちとしての法要は終わりました。しかし、尊い犠牲の上に私たちは生きているということ、支えあつて苦難を生き抜いて今があることを忘れてほしくはありません。人が忘れてしまえば、そこで歴史は終わってしまいます。方城大非常から百年がたちましたが、この節目にもう一度かつてのふるさとを思い、今日の礎となつてい

住職。大非常犠牲者の位牌や霊鑑がおさめられている福圓寺では、4代にわたつて百年間、住職が毎朝夕かさず供養してきました。福智町では、故郷の礎となつた炭鉱に思いを馳せ、方城大非常をはじめとする全ての炭鉱殉職者に対し、12月15日午前9時40分、町内全域の放送で、黙とうを呼びかけます。

炭鉦長屋で愛された味を「福智名物」として復刻  
 ヤマの心と町おこしを広める活動の輪

「方城大非常」がルーツの  
 ご当地グルメで町おこし。  
 故郷の誇りと魅力を伝える  
 輪が、広がっています。

# 郷土の味に



目的に、ポラン  
 ティアで活動  
 しています。  
 これまで「方  
 城大非常」が  
 起きた日に「福  
 智名物・方城すい  
 とん」の振舞い会を  
 行ったきた「福智好い  
 とん」の振舞い会を

**福** 智町のご当地グルメ「福智名物・方城すいとん」は、かつて炭鉦のまちで愛されてきた郷土料理。そのルーツは百年前の「方城大非常」にさかのぼります。その際、向こう三軒両隣の炭鉦長屋で、各家庭が具材を持ち寄り、親を亡くした子どもたちのために、大鍋で「すいとん」を振る舞ったのが原点とされています。

## 先人への思いを込め 広がるふるさとへの味

福智町特産品開発プロジェクトで4年前に発掘したこのご当地グルメを、その背景やストーリーを含めて、福智の魅力を広げようとして取り組んでいるのが「福智好い」とん隊」です。役員職員や商工会青年部などが会員で、現在およそ30人。「福智名物・方城すいとん」をはじめ「福智ブランド」の商品とともにまちを広くPRし、地域活性化を

行ってきた「福智好い」とん」の振舞い会を  
 目的に、ポラン  
 ティアで活動  
 しています。  
 これまで「方  
 城大非常」が  
 起きた日に「福  
 智名物・方城すい  
 とん」の振舞い会を  
 行ったきた「福智好い  
 とん」の振舞い会を

また、かつて上野の里にあった人気店「大福うどん」のかしわおにぎりを店主秘伝のレシピと指導により、「大福おばちゃんのかしわおにぎり」として復刻し、幻の味を再現。出展では「方城すいとん」とともに、地元の伝統的工芸品の上野焼の器とセットでPR提供するなど、地域の文化や伝統産業と結びつけた活動も進めています。

そして、方城大非常から百年の節目にあたる今年、「福智名物・方城すいとん」メニュー化の呼びかけに、多くの町内店舗が手を挙げて店舗販売が実現。ふるさとへの思いを込めた一杯が、各店舗で提供されます。私たちの故郷の礎になっている炭鉦と、そこにあった支え合いの心が、ご当地グルメによるまちおこしというかたちで、その輪を広げています。

**風土を象徴する味**  
 4年前、まちの特産品開発プロジェクトの一員として、食進会もご当地グルメの研究に参画しました。福智のPRやまちおこしにつながるメニューを位置づけていくなかで、たくさんアイディアが出されましたが、やはり、その歴史やストーリー、かつてのヤマの故郷を共有できる点で「方城すいとん」以上のもはありませんでした。「すいとん」は昔、よく家庭で食べられていましたが、その旬の食材や栄養バランス、団らんの場で心や体をあたためるといった特徴からも、先人たちが家族にそそいだ愛情を感じます。

「福智名物・方城すいとん」は、食進会でも福智の風土を象徴する「おふるの味」としてPRし、毎年「国際車いすテニス交歓会」では、外国人選手をはじめ、多くの会場のみなさんに味わっていただき親しまれています。



## 福智名物 方城すいとん

### まちおこし 協力店

「福智名物・方城すいとん」メニュー化の募集で協力していただくことになった各店舗。それぞれ、個性と味が自慢のすいとんをご紹介します！

- 一、季節の野菜を使った「具たくさん」な一杯
- 一、食感にこだわった「すいとん」が入った一杯
- 一、子どもたちにも愛される「優しい味」の一杯
- 一、隠し味に郷土と絆への「愛」が込められた一杯

天ぶら割烹 福善

福智をまるごと食べて欲しいので、旬な食材を鍋で提供。あっさり定番のふくぜんで、食べればクセになるピリ辛鍋をお試ください！



↑ピリッとした辛みと、トマトの酸味が食欲をそそる冬季限定の鍋。シメのラーメン付で一人前1,580円。  
 ☎080-9423-2735 定休日： 困

麺処 弁天

幼い頃に聞いた当時に思いを馳せ、ショウガたっぷり、体の温まる味を考案。うどん&すいとんで満腹になること間違いなし！



↑手打ちうどんにすいとん、さらに自慢の唐揚げまで入って600円(税)。単品(税)は100円でご提供します。  
 ☎22-2280 定休日： 困の昼～

うどん・鉄板・鍋 健吉

うどんだしと鶏だしを合わせたあっさりスープで、女性にもオススメです。福智出身なので、この一品で町のPRに貢献したいです。



↑食感と味にこだわったすいとんは、単品450円、日替わりの小鉢付き定食は600円でお出しします。  
 ☎28-2084 定休日： 困

寿し あら川

まちのために協力ができればと、魚介を扱う当店ならではのすいとんを開発。器に込めた「ほっとする味」をぜひ一度お楽しみください。



↑冬に旬を迎える魚介のうまみと、手作りさつまあげ、地産地消の野菜をふんだんに使った一椀。600円。  
 ☎22-5275 定休日： 困

居酒屋 そこそこ

食の魅力で故郷「福智」を応援したいと思い、地元産の素材にこだわり、この町で愛される昔ながらの「家庭の味」を追求しました。



↑炭火であぶったすいとんに、ふんだんな具材、ピリ辛肉味噌も付いた箸が進む一杯です。単品500円。  
 ☎22-0711 定休日： 困

活魚寿司 たちばな

鉦員だった祖父の話を手がかりに家族で楽しめる味を目指しました。時季の味覚あふれるすいとんを、特製の薬味とともにご賞味ください。



↑地元で育った天草大王(鶏肉)など、福智産の素材を贅沢に使った冬～春先までの限定メニューです。  
 ☎22-5122 定休日： 第1・第3 困

食事処・酒処 信子

地元の野菜や鶏肉からうまみを最大限引き出し、最後の一滴まで美味しく食べてもらえる一杯です。故郷と愛情を込めてご提供します。



↑冬季限定のすいとんには、手作りミンチや福智の野菜がたっぷり。定食は大人気の卵コロッケ付で780円。  
 ☎28-2013 定休日： 田・日・ 困

方城温泉ふじ湯の里 レストラン 辛夷

辛夷(こぶし)のウリはコラーゲン入りすいとん麺。四季の福智山を眺めながら、温泉とすいとんで体の内外からリフレッシュしませんか？



↑平日限定「美麺ほうじょうすいとん定食」。天ぶらや茶碗蒸し付。トマト味が890円、みそ味が850円。  
 ☎22-6667 定休日： 第3 困

コスモス保健センター レストラン コスモス

昨年大好評だった限定メニュー「方城すいとん定食」。配食サービスも行う当店で、塩分控えめで優しくヘルシーなすいとんを今年もご用意しています。



↑冬季の限定「方城すいとん」。単品が250円、日替わりの小鉢が付いた定食は450円のお得メニュー。  
 ☎28-4646 定休日： 田・日・ 困

## この旗が目印

現在、味を研究中で掲載できない店もある「福智名物・方城すいとん」の店舗展開。このご当地グルメを福智町から全国に発信し、まちおこしに協力いただける店舗をまだまだ募集中です！店舗には幟旗をお渡しし、将来的にはチラシや店舗マップなどのPRグッズを作成する予定です。

福智名物 方城すいとん

さらに販売店舗大募集

☎まちづくり総合政策課 ☎22-7766

# 方城大非常から百年の節目に 「方城すいとん」が給食メニュー化

# 郷土の子に

福智町の全小中学校8校、2024人の全ての子どもたちが学校給食でかみしめる故郷の味。祈りと学び、そして食で、故郷を心に刻みます。

## 全校で給食献立と郷土の学びが実現

方城大非常をルーツに、故郷の炭鉱と命の尊さ、炭鉱長屋での支え合いやつながりなど、深いメッセージが込められている「福智名物方城すいとん」。大非常から百年の節目にあたる12月15日、このご当地グルメが、福智町で初となる全小中学校8校の学校給食メニュー化が実現することになりました。

さらに、事故が発生した9時40分には、全校で大非常と全ての炭鉱殉職者に黙とうをささげ、その日、全てのクラスで郷土と炭鉱、人の命の尊さを学ぶ学習が行われます。

「かつて国を支えるエネルギーを生み出した炭鉱と尊い命の犠牲、そして、先人たちの絆や子どもたちへの限らない愛がこの町にあったことを忘れないために、福智町の全ての子どもたちに、ふるさとをかみしめてほ



市場小学校・校長 井上 憲治 校長

しい」と校長会会長の井上憲治市場小学校長は力を込めます。あの「大非常」から百年を経て、この町の約2千人の子どものために、過去を学び、先人を思い、郷土を一緒に味わいます。

### 福智産ミニトマト 永富 久三さん(神崎)



太陽と福智の恵みをたくさん吸収したミニトマト。減農薬で子どもたちにも安心・安全です。その食感と、口の中に広がる自然な甘みを、余すことなく感じてもらえたらうれしいです。

### 「ふくち☆リッチゼラート」 福智ブランドファクトリー



福智産あまおうなど素材を厳選し、ふんだんに使ったぜいたくなゼラート。みんなの笑顔の思いながら一つひとつ心を込めて手作ります。できたての味をお楽しみください。



### 福智名物・方城すいとん 福智好いとん隊



炭鉱で育まれた故郷の愛と絆の味、ご当地グルメ「福智名物・方城すいとん」を、学校給食で味わっていただき、そのメッセージを受けとめていただけることを誇りに思います。

### 大福おばちゃんのかしわ飯 世良 多美子さん(上野)



閉店はしましたが、こうして「大福うどん」の味が、いまだに親んでもらえていることに感謝しています。まちの全ての子どもたちに食べてもらえるなんて、感慨無量です。

## 故郷を体感する 福智一色のメニュー

12月15日に、福智町のすべての子どもたちの前に並ぶ献立は「福智名物方城すいとん」とどまらず、上野にあった老舗の幻の味を再現した「大福おばちゃんのかしわ飯」、地元産の新鮮野菜、そして福智ブランドの特産品である「ふくち☆リッチゼラート」といった、ふるさと「福智」一色のスペシャルメニュー。

福智町学校給食センター管理栄養士の松下美里さんは「黙とうや故郷と命の授業で学んだ子どもたちが、特別な意味を持つ給食を通じて、ふるさとへの学びと思いがさらに深まることを期待しています。調理員のみならず心も込めたすいとんを、実際に味わい、体感することによって、かつての故郷の姿や感謝の気持ちが子どもたちの心に刻まれたらうれしいですね」と、メニューに込めた思いを語りました。



福智町学校給食センター 松下 美里 管理栄養士

発生から百年たった「方城大非常」という「故郷と命の教材」を、合併して10年がたとうとしているこの福智町で、全ての学校と子どもたちが受けとめ、12月15日に初めて共有します。



金田小・中学校の自校給食室と共に、毎日2千食以上の給食を作る「福智町給食センター」。子どもたちに安全で安心な食を届ける栄養士や調理師などの協力で、今回の特別給食が実現しました。





いま、百年分の思いを込めて、  
一杯のすいとんが伝えてくれること。

# 郷土の愛に

先人の涙と愛がしみこんだ、この福智の大地で  
百年の思いを込めて故郷を伝える一杯のすいとん。  
子どもたちが胸を張って誇れるまちへ…



「福智名物・方城すいとん」のメニュー化に、家族が一つになって協力した井本さん親子。

「ふるさとの人」に喜んで欲しい。少しでも生まれ育った町の役に立ちたい。福智で生きていくことを決めた日、店名にその気持ちを込めました。11月から新メニューに「福智名物・方城すいとん」を掲げた「天ぷら割烹 福善」。店主の井本善尊さんは、自分の名前と故郷の町名から一文字ずつ取って、2年前、不転転の決意で店を構えました。

今回、ご当地グルメの新メニュー開発にアドバイスで協力したのは、妻・雅美さんと長男の莉玖斗くん。生まれたばかりの葉愛ちゃんは、その笑顔で力強い支えになりました。かつて、看護師の夢をかかえるため、高校卒業後からこの町を後にした妻・雅美さん。単身大阪で、学校と病院を合わせて7年間。見知らぬ土地と命に向き合う現場はとにかく

## 故郷の大切さをこの町で伝えたい

く大変な日々だったそうです。そんな、つかの間の休みに帰省する雅美さんを癒やしたのが故郷でした。「子どもたちにも故郷の大切さを知って育って欲しい。この町でたくさん友人と思い出を作って、笑って過ごして欲しいですね」と優しいまなざしを注ぎました。

## 絆つないだ一杯が物語る百年

「子どもたちが笑って過ごします」。そんな当たり前の日常が、一瞬で奪われた非情。それが百年前に起きた「方城大非常」です。多くの孤児がこの町にあふれ、幼な子の心よりどころと絆は、無残にも引き裂かれました。わが国の発展の礎を築き、多くの犠牲をはらんだこのまちの炭鉱。隆盛は誇らしげに伝えられますが、暗く悲しい過去は、長年伏せられていく傾向にありました。最近では子どもたちや、親までもが、実際ここに炭鉱の煙が上がっていたことを日常で感じることはありません。かつて天高くそびえたボタ山の存在も、ボタ山の言葉の意味さえも風化しつつあります。



ふるさとに伝えたいのは、かつてヤマの路地がはぐくんだ愛と絆でした

炭鉱の風景はすっかり変わり果て、かろうじて昔の面影をしのげるのは、方城炭鉱の赤レンガ記念館のみとなりました。しかし、あの日から百年を迎え、「方城すいとん」という一杯が、ヤマの小さな記憶と、故郷が培った絆の意味を伝える役目を担おうとしています。

## 郷土の誇りを全ての子ども達へ

12月15日に全校の机に並ぶ「福智名物・方城すいとん」。その日、2024年の子どもたちが「方城大非常」をテーマに、故郷への学びを深めます。

同じ時間に福智の命の教材で思いを深め、同じ故郷の味をかみしめ、全生徒児童が哀悼の意を込めて黙とうをささげる…。この記憶はきつと、小さな胸の奥に残るはず。私たちが町には何もないと、郷土に誇りが持てない人が増え、子どもたちにも影響を与えているといわれる現代。



「方城大非常」という事実をはじめ、さらに深い故郷の姿を子どもたちに気づき、感じて欲しい」と、教材準備に取りかかる伊方小の児童と永津明敏先生。

ふるさとを見つめ直し、先人を敬い、郷土愛を深めることが、やがて自尊心につながり、子どもたちが成長した時、かつての「燃える町・福智」が故郷なのだ、胸を張って伝えるのではないだろうか。

炭鉱の路地が育んだ、垣根のない郷土愛。ひたむきな情熱。子どもたちに注がれた温かなまなざし…。現代社会で忘れ去られようとしている古くさいこのキーワードこそ、何より求められているのかもしれない。

先人たちの汗や涙、喜びと苦しみ、愛と希望がしみこんだこの故郷「福智」の大地で、いま、私たちは生きています。